となりのファーマー

／7　ＮＰＯ法人・元気ファーマいながわ（兵庫県猪名川町）
／上　素人シニア集団、生き生きと

毎日新聞 2016年10月18日　大阪夕刊

農業は素人の平均年

農林業　めっちゃ関西　食　ライフ

「白ネギは人気です」と自慢げな今田勝之さん＝兵庫県猪名川町で、松井宏員撮影

［PR］

齢６７歳のシニアたちが営む農園が、兵庫県猪名川町にある。合言葉は「自産自消」。能勢電でゆるゆると向かった。

日生中央駅に迎えに来てくれた「元気ファーマいながわ」の今田勝之さん（７４）の車は、農村の細い道を進んでいく。毎週火曜は、５２人のメンバーがそれぞれ担当する２カ所の農園に、なるべく顔を出す定例活動日。今田さんに案内してもらった南田原地区の畑ではナスが実り、大根や白菜、キャベツ、正月用の葉ボタンなどが青々と育ち、落花生が天日干しされ、ウドが白い花を咲かせていた。

収穫や草取り、トラクターでの耕地などに汗を流したメンバーたちは、季節終わりのマクワウリや長ナス、空心菜など、収穫したばかりの野菜を分けて、持って帰っていった。自産自消、つまり自分で作って自分で消費するのが理念。だから「野菜は買ったことがないです」と今田さん。年間約５０種も栽培しているから、そりゃあ買う必要はないでしょう。

そもそもは、猪名川町のシニアファーマー養成講座を２００７年に受講した人たちが「これでやめるのはもったいない」と町に掛け合い、土地を借りて野菜を作ったのが始まり。その後、講座受講者が加入してメンバーは増え、１１年にＮＰＯ法人を設立。独自に休耕

火曜は収穫した野菜をみんなで分けて持って帰る。今日は空心菜にマクワウリにナスにサツマイモ＝兵庫県猪名川町で、松井宏員撮影

地を借りた。町に委託されて、結成のきっかけとなった養成講座も引き受けている。

農業高校の元校長の経歴を買われて理事長を務める秋沢亮一さん（６９）は「元々は自分で作って食べることしか考えてなかったのが、『町のイベントに出品して』『ＪＡに入って』『出荷して』と話が膨れあがって」。自消ではまかないきれない分は学校給食に提供したり、道の駅いながわで売ったりしている。

メンバーのほとんどが、ニュータウンに住む定年族。職歴はさまざまだ。「人材が多様でして」と秋沢さん。「過去の経歴は聞かないのがルール」と言いながら、おのおのの職歴が大きな武器になっている。

「こんなナスができたで」って＝兵庫県猪名川町で、松井宏員撮影

会社員だった今田さんは経理に通じ、活動実績などの文書もお手のもの。「民間の助成金の申請も、任せておいたらだいたい通る」と秋沢さんも絶大な信頼を寄せる。副理事長の高松洋介さん（７０）は航空機の整備士を４０年務めていたから、故障したトラクターなどの修理を一手に引き受ける。近所の農家が「直して」と持ち込んでくることも。「機械はどれも一緒。機械屋の醍醐味（だいごみ）ですわ」と笑う。真夏の作業で熱中症になったメンバーは、元看護師さんが初期対応にあたるし、建築関係の仕事をしていた人は小屋の棚などを作る。多士済々は多人数のメリット。しかも特技を生かした生きがい作りにもつながっている。

高松さんは「週８回は来ている」という。中には、家におられたらかなわんと奥さんが勝手に応募した人もいるらしいが……。夏は水やりに草取り、害虫駆除に汗を流した。３年前に加入した井口美智子さん（７１）は「新鮮な野菜が毎日食べられるし、太陽に当たって

ナスを収穫する井口美智子さん。おしゃべりしながら手も動かして＝兵庫県猪名川町で、松井宏員撮影

健康的。それに一人も意地の悪い人がいないの。よくこれだけ、人のためにできるなってくらい」。真夏の作業も苦にならなかったそうだ。

ここ、なんだか面白そう。次回に続きます。<文・写真　松井宏員／タイトルイラスト・布川侑己>＝第３火曜掲載

◆農園メモ

ＮＰＯ法人　元気ファーマいながわ

ＮＰＯ法人元気ファーマいながわ（兵庫県猪名川町）

メンバーは猪名川町や近郊の人たち。年会費１万２０００円、入会金１万円。道の駅いながわでは、「元気ファーマ」のシールを貼った野菜が販売されている（土日はほとんど出荷している）。問い合わせは秋沢さん（０７２・７６６・２３０７）。

◆お薦めレシピ